

「家がいいね」 第49号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2008. 6. 9

私達の生活で、これが当たり前であり反論できないような言葉があります。「早く〜」と「忘れるな〜」です。

とにかく善とされるのは、急ぐ事、何でも早いのがいい。そして沢山の知識を忘れないように憶えることも繰り返し要求され、それが教育目標のようになっています。その結果か老後を迎えても、何事か追い求め心が落ち着かず、病気では癌より忘れる認知症が怖いとおびえるような具合です。

でも「自分の問題」として考え直し「待つこと」を心がけるなら、解決は発酵するよつに訪れます。忘れる事も上手に許せば、新しい発想に辿り着けます。不思議に好奇心が助けしてくれるものです。



モノがあふれながら値上がりとは？

月が替わるたびにガソリンが値上がりし、スタンドに長い列が出来ても販売制限はされません。食料品の値上げでも、商品棚からは消えませんが、

需要供給の実態とは異なるこの値上げは、土地投機のあのバブル景気に似ています。だが私達は恵まれています。世界の10億人は一日を1ドル以下で過ごす生活です。地球の裏側の「投機筋」が、広く浅く皆の財布から吸い上げると思っていると、生きる事を破壊する投機とは腹立たしい行為です。

イソップ童話になった「触れると黄金になる話」を、思い出しました。神はミダス王に願い事をかなえてやろうと言い、王は「触れるものを何でも金にする魔法」と頼みました。願いが叶い、王は色々なものを金に変えました。有頂天の王が、愛娘に触ると、娘も金に変わってしまいました。さあ何か食べようとすると、それも金に変わってしまいます。王は嘆き、この「呪い」の取り消しを懇願します。王が受け入れた方法とは、川の水源に身を沈めて、自分の過ちを悔い改める事でした。さて「投機筋」とは、現代の何人のミダス王なのか、その心境と実態は想像もつきません。

みえ生と死を考える市民の会講演会にて

大下大圓さんに

「生きる意味とこころのケア」を講演して頂きました。高山の町づくりの中でホスピスケアを考えてゆきたいと言われ、お寺から外に出る活動の年月を紹介されました。

四肢麻痺で言葉を失ったFさんと次第に心を通わせ自宅に

連れ帰る体験から、「死にたい」が「ケアされている」そして「もっと生きたい」に変わり、人が生きる意味を求める所に（訳しにくい言葉だけど）スピリチュアルなものが在ると示されました。



「終わりよければ」いせの会

死ぬことは誰かに責任があるのではなく、自らに責任を持って生きることがあるだけです。不安はひとりで抱え込むことで増しますが、ともに話し合い、分かち合うことで、和らぐものです。

毎月第3木曜に、いせTV「ア学習室」で懇談会

6月19日 トークと懇親会 19時〜20時半
講師 吉田利康さん（兵庫県 西宮市 市民）
「妻を自宅で看取って思つこと」三つの告知



自宅での人生を 最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>